



人とかかわりのなかで育つもの

8月の中旬、広島県に大雨警報が発令され、降り続く雨の中で避難指示の放送を耳にしたときは、不安になりましたが、そんな中でも、保育園で過ごす子どもたちは怖がることもなく、あそびに夢中になっていました。

子どもたちの周りにはさまざまな玩具や素材(廃材、紙、ビニールなど)がたくさんありますが、それを使ってどういう風に遊ぶかは、子どもたち一人ひとり違ってきます。自分の遊びたいことを決めている子もいれば、ほかの子の遊んでいるのを見て、「あんなことやってみたいな」とその気になる子もいますが、みんな仲間がいるから遊びが発展します。中には自分の思いと違っていたり、うまく関わることができなくて、いやな気持ちが抑えられず、トラブルになることもあります。保護者の皆さんは、自分の子がまわりの子と仲良くトラブルもなく遊んでいれば安心だと思われるかもしれませんが、自分以外の人の気持ちや立場に気づいたり、思いやりや感謝の気持ちを持てるようになるには、乳幼児期において、楽しいとかうれしいだけでなく、痛いとか悲しい、悔しいというマイナスの出来事を乗り越え、それでも友だちといると楽しいという経験を経験することが、必要不可欠なものとなります。

子どもは、側に安心して話せる大人がいると、うまくいかないことがあっても、すぐにあきらめず、繰り返しチャレンジし、試したり、考えたりと物事に粘り強く取り組む子になります。保育園などでのいろいろな出来事を、お子さんが「あのね、きょうね」と話し始めたら、しっかり顔を見ながら、ゆったりとした気持ちで聞いてあげてください。嬉しかったことでも悔しかったことでも、だいすきなおうちの人に聞いてもらえることで、子どもたちは心が休まり、明日への元気につながると思います。

9月に入ると少しずつ運動会や作品展に向けての準備に入ります。運動会や作品展は子どもたちが自分でイメージしたことを、考えたり工夫しながら

最後までねばり強く実現することで、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」の中の、健康な心と体であったり、協同性や思考力、言葉による伝え合いなど、いろいろな力が身につく点で大切な行事なのですが、今年も運動会については小学校との共同開催が難しい状況です。子どもたちが自分で考えたり工夫したことがうまくできて、少し自慢したいとき保護者の方から認められ褒められることで、自分に対する自信が育つので、保育園だけであったり、場合によっては園児だけになっても、運動会は開催したいと思っています。具体的なことは決まり次第お知らせします。

「人は群れの中で育つ」と言われています。子どもたちは、人と関わる中で達成感(できたよ)や自己肯定感(これでいいんだね)を繰り返し経験し、積み重ねていき、それを基盤として非認知能力と言われる生きるための力や相手に対する思いやり、自分で物事を判断する力、やる気が育っていきます。

当園は園児が少ないので、3歳からは混合クラスになります。しかし、大きい子が年下の子の面倒見がよく、年下の子は大きい子の様子をよく見ているのか、群れが小さくても、やることは他の園の子に負けていません。7月に行われた3園合同のお泊り保育で、当園の子どもたちが他園の子どもたちと一緒に、物おしせず楽しそうに行動している姿を見て安心したところです。お子さんの話をしっかり聞いてあげてください。

感染者が急増する中、広島県に3度目の緊急事態宣言が発令され、ワクチン接種が受けられない子どもたちの感染も増えていることが気がかかります。子どもは日々心も体も成長しています。この大切な乳幼児期を楽しく充実した毎日にするのは、私たち大人の責任です。皆様と共に感染症対策に気をくばりながら、行事などは少し今までとは違っていても、子どもたちには楽しいことがたっぷり経験できるようにしていきたいと思っています。

園長

暑さにも負けず夏野菜がたくさん実り収穫できました。給食のメニューの中に追加して入れてもらったりクッキングをして食べたりしました。



「あ〜こうやってやるんだ〜」見て学んでいますね。

毎日畑で獲れるミニトマト(収穫して冷凍)をお鍋でコトコト煮て砂糖を入れ、レモン汁を入れたらハイ! トマトジャムの出来上がり。パンやクラッカーにはさんで「いただきますぁーす」次の日にはピザトースト風にして食べると「これがおいしい!」と大好評でした。



裏の畑のさつまいも・・・いのししに食べられてしまいました。残ったのはこれだけ。きれいに皮だけ残っていました。いのししも生きるため・・・でも残念です。



お米の赤ちゃん、植えたときは小さかったのにぐんぐん大きくなり稲穂の先が重みで垂れてきましたよ。近くで見てくださいね。



防災週間



9月1日は防災の日です。西日本豪雨災害から3年が経ちましたが、被害の爪あとは未だに消えていません。あの日を忘れることはなく、防災への意識を高めることが命を守るにつながっていきます。防災用品などを用意することだけでなく、日頃から自分たちの住んでいる地域はどんな災害が予測されるのかなどを知っておくことや避難場所までの経路などについて家族で話しておくとういでしょう。



おねがい

降園時に自動ドアの開閉ボタンをお子さんが押している姿を見かけることがあります。自分でジャンプして押したり、保護者の方に抱っこされて押したりという場面を目にします。子どもたちの安全のためお子さんが自動ドアのボタンを押すことのないようお子さんとお話してみてください。ご協力お願いします。